

科目	言語文化	単位	3	学年	1
使用教科書	「高等学校 精選 言語文化」(第一学習社)			副教材等	・「プレミアムカラー 国語便覧」(数研出版) ・「新しい古典文法」(桐原書店) ・「新しい古典文法 演習ノート」(桐原書店) ・「漢文必携」(桐原書店)

学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点について、授業、定期考査、課題、小テスト等を用いて評価を行う。		

学期	学習項目	学習内容及び評価の観点
一学期	児のそら寝 古文を読むために1	・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解すること。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主として歴史的仮名遣いや古今異義語について、文語のきまりを理解する。 ・時間の経過や地域・文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。
	なよ竹のかぐや姫	・伝奇的作り物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・用言の活用について理解し、学習の見通しをもって活用形を調べようとしている。
	伊勢物語 〔歴史の窓〕 古文を読むために3	・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 ・歌物語では感動の中心が歌にあることを理解し、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・「歴史の窓」と「筒井筒」の課題を踏まえて、作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・主として用言の活用について、文語のきまりを理解する。 ・歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えようとしている。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。
	訓読に親しむ 漢文を読むために	・漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方を習得する。 ・漢文を訓読するための基礎知識として、助字のはたらきと意味を習得する。 ・漢文を訓読するための基礎知識として、再読文字の種類と読み方を習得する。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ・日常的に使う故事成語や格言の量を積極的に増やし、漢文が我が国の言語文化と不可分の関係にあることを理解しようとしている。
	漁父之利 狐借虎威	・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。 ・文章の種類を踏まえて、たとえ話を読み解き、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・故事成語の由来となった話を読み、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 ・故事成語の由来となった話を積極的に読み、わかった内容を工夫してまとめようとしている。 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価する。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。

学期	学習項目	学習内容及び評価の観点
	羅生門（芥川龍之介） 文学のしるべ	・下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解すること。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使う。 ・老婆の語る論理を、叙述を基に読み解き、学習課題に沿って、下人がどのように判断したか、説明しようとしている。 ・典拠となった『今昔物語集』の説話と粘り強く読み比べ、作者の工夫をまとめようとしている。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深める
二学期	土佐日記 古文を読むために5	・女性に仮託して書かれた日記という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れている批評や諧謔の精神と、亡児追憶の心情を捉え、内容を解釈する。 ・主として助詞について文語のきまりを理解する。 ・学習の見通しをもって虚構性の高い日記を読み、執筆意図などについて積極的に批評したり討論したりしようとしている。 ・学習課題に沿って異なるテクストを読み合わせて、わかったことを積極的に伝え合おうとしている。
	徒然草 古文を読むために6 〔歴史の窓〕	・さまざまな文体を駆使した随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・「花は盛りに」では課題に応じて調査する。 ・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解すること。 ・「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にする。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。
	完璧	・史伝の舞台となる時代背景を知るとともに、作中に描かれた蘭相如の考えや人物像を読み取る。 ・史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・「完璧」の由来を知り、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 ・積極的に史伝を読み、蘭相如の考え方や人物像を説明しようとしている。 ・蘭相如の登場する別の話と粘り強く読み比べ、表された人物像の相違点をまとめようとしている。
	唐詩の世界 漢詩のきまり 〔歴史の窓〕	・表現や技法（押韻や対句）に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・漢詩のきまりを進んで理解し、学習の見通しをもって漢詩を鑑賞しようとしている。 ・粘り強く漢詩を読み比べ、よまれた情景や心情を説明しようとしている。
	自分の感受性 くらい（茨木のり子） 夢十夜（夏目漱石）	・現代詩の鑑賞のしかたを理解し、作品にこめられた作者の批判精神を読み取る。 ・「書くこと」において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫する。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解する。
三学期	平家物語 〔古典のしるべ〕和漢混交文	・合戦を主題とした文学作品を読み、争いを背景として生まれた思想や人間のありようを知る。 ・軍記物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れている無常観や武士の生き方を捉え、内容を解釈する。 ・言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深める。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深める ・作品に表れている無常観を粘り強く読み取り、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。
	奥の細道 〔古典のしるべ〕『奥の細道』と和漢の文学	・俳諧紀行文における散文と句の関係を理解し、作品に表れた作者の思想や心情を捉える。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価する。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 ・我が国の言語文化に特徴的な俳諧の表現の技法とその効果について理解する。 ・自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫する。
	その子二十 城の崎にて	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深める。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。